

笠沙恵比寿 博物館 「海を考えるカルチャー週間」 活動報告

実施期間：平成29年10月14日（土）～平成29年11月5日（日）



【事業の内容・目的】

- 「笠沙恵比寿」は、2000年に、「海に遊び、海を学ぶ」をテーマに、運営してきました。「海」と親しみ、ふれあい、大切に思う心を育む為に、この事業を行うこととしました。
- 様々な年齢層の方に興味を持っていただけるように、多角的な視野から地元の海を学べるプログラムを行いました。例えば、公開講座には、内容を分かりやすいものにする為に、それぞれの分野のファシリテーターにも登壇頂き、実際の経験も重ね合わせて講演頂き、広い年齢層の方々に、「海」について理解を深める場を設けました。
- 味わい事業では、実際の笠沙の海の豊饒を味わい、特に、笠沙沖では、豊富な種類の魚介類が獲れる事を理解して頂き、「地元の海」への理解も深めてもらいました。
- 体験プログラムでは、ヨット・カヤック・漁船で、海洋上から、実際の海を観察する。まさに人間の五感を以って、「海」を理解する機会を得ることができるよう工夫しました。
- 生命の起源であり、人間の生活を支え、そして今、「環境汚染」に脅かされる「海」への理解を深める機会となるよう工夫しました。
- 結果として、
 - I 「学びの場としての海」
 - II 「自然に触れ合う遊びの場としての海」
 - III 「人間の営みにとってかけがえのない海」を理解する機会を得ることができるようになりました。

活動の様子

1. サイエンスカフェ&アドベンチャー

【開催日時】平成29年10月15日(日)・10月29日(日)・11月5日(日)
第1部 10:10~12:00 第2部 12:00~13:00 第3部 13:00~18:30

【開催場所】笠沙恵比寿 博物館ホール・野間池近海

【参加者数】10/15 72人・10/29 56人・11/5 78人 総計206人

【活動内容・目的】

- 第一部は、サイエンスカフェとして、鹿児島大学水産学部の教授連による公開講座により、学術的な見地から「海」の貴重さ・資源の豊富さ・有難さを知る機会を得るようにしました。
- 第二部では、味わい事業として、実際の「笠沙の海の豊饒」をお弁当にした「海鮮弁当」を聴講者に味わって頂きました。
- 第三部では、ヨット・シーカヤック・漁船に分乗して実際の笠沙の海に漕ぎ出し、現在の笠沙の海の現状を体感。
貴重な体験を通して、参加者が、心身共に達成感を味わう時間を共有できるようにしました。



受付・事前説明



公開授業・会場風景



講師



ファシリテーター



「海の幸」 味わい体験



「魚種」の豊富さも理解できました



シーカヤックのパドルの漕ぎ方説明



ヨットの乗船上の注意



シーカヤック体験航海



ヨット「海連」体験航海

第1部は、Vol.1～3として、それぞれの講師・ファシリテーターによるサイエンスカフェ（講演会）を実施しました。

10月15日の回は、「海は広いぞ！大きいぞ！」と題して、世界の海を俯瞰し、その中でも特に、笠沙の海の特徴を形成している「黒潮」にフォーカスして、「海洋学」について、講師を鹿児島大学水産学部の中村教授に、ファシリテーターとしてヨットでの世界一周の経験を持つ今給黎教子氏に登壇頂き、海洋の成り立ちや、海洋資源・海洋と気候変動の関係など、海そのものへの基礎知識を学んで頂きました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

今給黎さんの世界一周における“世界の海”でのお話から、大海原の厳しさ・素晴らしさを感じるものとなり、リアリティのある、わかりやすい講義となりました。

今給黎さんの世界一周のコースを辿りながら、実際の海流・偏西風の様子と、合致している事に、皆さん、感心していました。

10月29日の回は、「お魚は森で育つ?!」と題して、陸地と海洋のつながりと関係から、自然全体が成り立っていることを理解して頂き、此处「笠沙の地」が非常に豊かな自然・汽水域を、その環境が育てていることを学んで頂きました。

ファシリテーターとして、シーカヤッカーの安部直人氏に登壇頂き、実際の経験から、リアリティのあるお話満載で、海面に一番近い場所から見た、生き物たちの様子・海洋ごみの実態など、“私たちの身近な問題”としてお話して頂きました。

又、色々な生き物のパネルを用いながら、汽水域を中心に、食物連鎖が起こり、山地から海洋に至る、生き物の環境が良く理解できました。

聴講者が、生き物の視点から、自然環境全体を鑑み、環境保護に対する意識をそれぞれ高めて頂いたようです。

11月5日の回は、「日本人とお魚の長い長い物語」と題して、日本人の食文化を支えてきた「漁業」の過去・現在を辿りながら、漁業の衰退が進んでいる現状を鑑み、これからの「漁業のあり方」について提言をまとめる試みを行いました。

実際に、定置網漁業を長年やってきた中尾雄作氏から、気候・水温の変化により獲れる魚の種類が変化してきていること、魚食のニーズの質・量の変化により、漁業そのものも、変化せざるを得ない状況であること等、のお話をして頂きました。

佐野先生と中尾氏のお話は、地魚のおいしい食べ方・調理方法のお話が、次から次へと出てきて盛り上がり、さながら、壮大な「料理番組」のような楽しい時間となりました。

結果、お魚のバラエティに富んだ食べ方を学ぶこともできました。

第2部の味わい事業では、笠沙恵比寿にある「お魚図鑑」等でも、魚種の豊富さを理解して頂きながらの時間となりました。

改めて、「笠沙の海」の豊かさを皆さんで確認して頂くことができました。

具体的に、笠沙近海の魚類図鑑を見て頂きながら、その豊富さに納得されていました。

特産の「たかえび」に喜ばれたり、「矢柄」は、都会では高級魚とされていることなど聞き入り、感心されていました。笠沙ならではの魚介類に喜んで頂きました。

第3部において、ヨット・シーカヤック・漁船により実際に海洋に漕ぎ出す際は、冒険に対するわくわく感と同時に、インストラクターの指導から、その厳しさも、理解しながらの体験となったようです。「海」に対する「理解」や、「親しみ」を持つ機会を得る事が出来たようです。

地元鹿児島は、周りを海に囲まれていながら、実際にこんなに身近に海に触れる機会は、日常生活の中では少なかったと、喜んでいました。

笠沙沖の「すぐ近くの綺麗な海」を再確認すると同時に、野間岬に漂着するプラスチックのゴミの多さにびっくりする場面もありました。

多くのアンケートから、日頃、身近にありながら、実際に触れることの少なくなった「海」の大切さや、同時に「大切にしなければならない」という気持ちを持って頂いたことが伺えました。

【参加者の声】

- 気候や、鑑真の秋目への漂着等の歴史が黒潮の流れと関係していること。もう少し深く学んでみたいと思いました。今給黎さんのお話も詳しく聞いてみたいと思いました。
- 偏西風による海流への影響、潮流により、暖流・寒流が出来ているメカニズムが理解できた。
- 黒潮の特徴が理解できた。海の営みが人間の生活に多大な影響を与える事が理解できた。
- 世界中の海水は温度の違いで、海水面が世界一様ではないということを知りびっくりした。しかも、太平洋の中でも、日本近海が黒潮の関係で、一番高いということを知り、更にびっくりした。

2. ヨットアドベンチャー

【開催日時】平成29年10月14日(土)・10月21日(土) 10月28日(土)
(10月22日(日)・11月3日(金)・11月4日(土) 中止)
09:00 ~ 15:00

【開催場所】笠沙恵比寿博物館ホール及び野間池近海

【参加者数】10/14 6人・10/21 3人・10/28 14人 総計23人

【活動内容・目的】

- 実際に世界一周したヨット「海連」に乗船し、実際にヨットで世界一周した今給黎さんの指導の下、海洋・海風を体感し、「海の厳しさ」「海の素晴らしさ」を身をもって理解する機会を得る事としました。
又、参加者が、最後に、今日の体験を記憶して頂けるように、「思い出絵画」を作成して頂く時間を設けました。



今給黎さんの体験談・ビデオ鑑賞



ヨットの仕組み・操舵方法の説明



ヨットでの体験航海・海面観察



思い出を絵画に残そう

第1部では、世界一周した時の記録映像を鑑賞し、具体的な当時の体験談として、

- ・赤道直下では、焼けるよう暑さの空の下を航海したこと
- ・南極近くでは、氷山にぶつからないか心配で眠れる夜を幾晩も過ごしたこと
- ・台風の中を航行した時は、強風でヨットが120度くらい傾いて、船内の荷物がひっくり返って、ぐちゃぐちゃになったこと
- ・時には、海鳥が、羽休みにヨットの舳先にとまったり、かつをが船内に飛び込んできて、思わぬご馳走になったことなどを聞いて頂きました。

感動的な映像で、感動して涙を流される方も見受けられました。

日本人女性初の「単独無寄港世界一周」の大変さ・凄さ・海の怖さ・素晴らしさなど

映像からその一端を感じることでできた貴重な時間を醸成しました。

第2部での体験航海は、かっこいい今給黎さんのヨットの航海で、皆さん感動し、又、楽しんでいました。ゆっくりと進むヨットから、澄んだ海や、泳ぐ魚たちも見る事が出来たようです。海の厳しさ・素晴らしさを体感して頂く事ができたようでした。

第3部では、今給黎さんと一緒に、体験日記として、絵をそれぞれ描きました。

「海を大切に思う気持ち」を絵と共に育み、「想い」として参加者の心に留める時間となりました。

【参加者の声】

- 海は広くて大きい。世界はこんなにも広いので、小さな事で悩んでいる暇は無いと感じた。
- ヨットに乗って楽しかった。海がきれいだった。
- 今給黎さんは、すごいなあと思った。海は怖いけれど、自分たちがきれいにしていけないといけないと思った。
- いつも、目の前にしている海だけど、海は広いんだなと感じた。
- ヨットの体験は、気持ちよかった。自分も大きくなったら、自分の船で海を航海してみたいなと思った。
- いまきゅうれいさんがかっこよかった。お魚さんがいっぱいいた。

3. シーカヤックアドベンチャー

【開催日時】平成29年10月14日(土)・10月21日(土) 10月28日(土)
(10月22日(日)・11月3日(金)・11月4日(土) 中止)
09:00 ~ 15:00

【開催場所】笠沙恵比寿博物館ホール及び野間池近海

【参加者数】10/14 3人・10/21 4人・10/28 2人 総計 9人

【活動内容・目的】

●実際にシーカヤックに乗船し、野間岬周辺の汽水域の生態観察を行うことにより

「海の多様性」を理解する機会を得ます。同時に、漂着する海洋ゴミの採取を行い、海洋汚染の実態を身をもって理解する機会を得ることとしました。

結果、「環境保全」における「問題意識」を皆さんで醸成することを目的としました。



シーカヤックの構造説明



シーカヤックのパドルの漕ぎ方の説明



シーカヤック 乗船体験



漂着物による記念工作

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

第1部では、「カヤック」の構造についての具体的なお話から、漕ぎ方など、又、湾内での航行の注意、外洋での海流・海風への対処の仕方、そして、海上・野間岬突端における自然観察の手順等、入念なレクチャーを受けました。

第2部では、強風の影響で外洋に出られなかった時もありましたので、野間池内での、シーカヤックの体験となった方もいました。外洋に出れた日は、より一層、海流や海風が時々刻々と変化する“自然”を感じる事が出来たようです。

シーカヤックに乗船し、水面すれすれを航海する事で、本当にきれいな野間池近海・笠沙の海を再確認して頂きました。同時に、野間岬の突端に漂着する海外からのゴミの現状

- ・中国文字や韓国文字が記載されたゴミが多い事・プラスチックゴミが大半を占める事
- ・対馬海流に乗って漂着し、野間岬の突端にひっかかっている事
- ・分解されずに、長い時間、放置されている事を目の当たりにすることもできたようです。

第3部では、自分で持ち帰った漂着ゴミや、事前にインストラクターの方で、採取して頂いていたものを用いて、記念の工作をして頂きました。

写真を額に入れて、記念のプレートにした方もいました。

航海体験・工作体験を通して、「海を大切に思う気持ち」を育み、「想い」として参加者の心に留める時間となりました。

【参加者の声】

- 海の大事さがわかりました。海を汚さないこと。
- カヤックの歴史がわかったこと。
- 海の漂流物を使って工作したことはよかった。海にごみを流さないようにしたいと思った。けど、ゴミを使ってかわいく工作アレンジができたので良かった。
- たくさんの漂流物があるんだなあとと思った。
- 海 大好き これからも子供たちと色々な海を感じていたい。

【事業全体のまとめ】

「海」そして「笠沙の海」の素晴らしさという事の情報発信が出来た事は、本当に良かったと考えています。又、「海」に関わるあらゆる専門分野の方々と改めて、お互いの「想い」を知り、確認出来た事も、副産物として大きな成果でした。

学術的な見地から、あるいは、実際の「海」の厳しさを自らの体で、そして味わう事で、その素晴らしさを、五感を以って、体感して頂きました。

地元鹿児島・南さつまの方々がほとんどでしたが、改めて、自分たちの身近にある「海」の素晴らしさを体感できたと喜んで頂きました。

全体の企画としては、練りこんだつもりでしたが、遠隔地であること、他の行事が多い時期と重なったこと、告知内容（イベント名等）が難しすぎたこと等々、当方の想いと、実際の生活者の感覚との間に乖離があったように感じました。行きやすい場所・行きやすい時間・より分かりやすい（来たくなる）表題を準備しないと、内容そのものは良くて、思う以上の参加者は望めないことを感じました。

ただ、来て頂いた参加者の方々には、貴重な体験・感動をすることができたと喜んで頂きました。

2020年の開館20周年に向けて、更に、「海に学び 海に遊ぶ」という笠沙恵比寿のテーマの浸透と、笠沙恵比寿を核として、地域の「海に親しみ、海に学び、海を大切に思う」心を醸成できるよう活動を継続していきたいと考えています。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 鹿児島大学水産学部	サイエンスカフェ 講師（教授）派遣
2. 今給黎教子氏及びチーム「海連」	今給黎氏の派遣・講演・ヨット「海連」貸出
3. 財団法人 B&G 錦江湾海洋クラブ	安部直人氏の派遣・講演・シーカヤック指導者派遣
4. 南さつま漁業協同組合	野間池と近海の船舶事故防止・船舶手配・広報
5. 笠沙漁業協同組合	野間池と近海の船舶事故防止・広報
6. 南さつま市	市長（代理）挨拶依頼・市民への広報・後援
7. 南さつま市教育委員会	小中学校への事前広報・後援
8. 南さつま市観光協会	広報・後援
9. MBC 南日本放送	広報・後援
10. KTS 鹿児島テレビ	広報・後援

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 南日本新聞	海を考えるカルチャー週間 「サイエンスカフェ&アドベンチャー」 H29.9.28

以上